

研究所彙報

一一〇一九年度研究所・所員リスト

- 教授 市野澤 潤 平 (文化人類学)
教授 今 林 直 樹 (社会学・政治学)
准教授 木 村 春 美 (第二言語習得・英語教育)
教授 九 里 順 子 (日本近代文学)
准教授 栗 原 健 (宗教学・近世ドイツ史)
准教授 間 瀬 幸 江 (フランス文学・演劇)
教授 松 浦 光 和 (心理学)
教授 宮 原 育 子 (地理学・地域資源論・観光まちづくり)
教授 J. F. モリス (日本文化論)
教授 清 水 禎 文 (教育学)
教授 新 免 貢 (宗教学)
准教授 杉 井 信 (社会人類学)
准教授 高 橋 陽 一 (日本近世史・旅行史・歴史資料保全学)

- 教授 田中一裕 (生態学)
- 教授 天童睦子 (女性学)
- 教授 豊澤弘伸 (国語教育)
- 教授 八木祐子 (文化人類学)
- 教授 吉村典子 (西洋美術・デザイン史)
- 客員研究員 阿部隆 (宮城学院女子大学名誉教授・人文地理学)
- 客員研究員 井上研一郎 (宮城学院女子大学名誉教授・近世美術史)
- 客員研究員 岩川亮 (元宮城学院女子大学准教授・フランス語学・文学)
- 客員研究員 遠藤みどり (日本学術振興会特別研究員・日本古代史)
- 客員研究員 犬飼公之 (宮城学院女子大学名誉教授・古代文学)
- 客員研究員 森雅彦 (西洋美術史)
- 客員研究員 大迫章史 (東北学院大学准教授・近代日本高等教育史・近代日本教育制度史・教育行政学)
- 客員研究員 折笠芽衣 (宮城学院女子大学四研究所副手・ポーランド美術)
- 客員研究員 片瀬一男 (東北学院大学教授・教育社会学・計量歴史社会学)
- 客員研究員 菊池勇夫 (宮城学院女子大学名誉教授・日本近世史)
- 客員研究員 木曾恵子 (東北学院大学および宮城学院女子大学非常勤講師・文化人類学・タイ地域研究・ジェンダー研究)

- 二 共同研究について
- 本年度の共同研究のテーマは次の通りである。
- 「南島における民族と宗教」
- 「多民族社会における宗教と文化」
- 「キリスト教文化の受容と変容」
- 共同研究の成果として、次の冊子が刊行された。
- 『沖繩研究ノート』No. 29
- 『多民族社会における宗教と文化』No. 23
- 客員 後藤 純子（元大阪市立大学文学部助教・インド学・宗教学）
 研究員 後藤 久太郎（宮城学院女子大学名誉教授・建築史）
 客員 富永 智津子（元宮城学院女子大学教授・東アフリカ・インド洋地域近現代史）
 研究員 早坂 優子（多賀城市教育委員会事務局文化財課調査普及係・民俗学）
 客員 丸山 仁（宮城学院中学校・高等学校教諭・日本中世史）
 研究員 土屋 純（元宮城学院女子大学教授・地理学）
 客員 安田 容子（東北大学災害科学国際研究所助教・生き物文化誌〈人と動物の関係史〉・日本近世
 美術史〈地方文人・画人研究〉）

三 二〇一九年度研究所活動報告

公開シンポジウム

二〇一九年七月二十七日(土) 午後一時より午後五時(≪仙台A E R 十三階 T K P ガーデンシティ仙台 ホール

十三A)

「多文化共生社会基本法」地方の実践から考える」

講師 山 脇 啓 造(明治大学国際日本学部教授)

講師 市 瀬 智 紀(宮城教育大学教員キャリア研究機構教授)

講師 河 森 佳奈子(静岡県くらし・環境部理事)

講師 清 水 孝 夫(石巻市国際サークル友好21事務局長)

講師 村 上 伸 子(気仙沼市議会議員)

講師 田 所 希衣子(「外国人の子ども・サポートの会」(仙台市)代表)

講師 J・F・モリス(本 学 教 授)

協賛 本学研究ブランディング事業・地域子ども学研究センター

公開研究会

二〇一九年六月十四日(金) 午後四時二〇分より午後五時五〇分(≪本学内うぶカフェ)

「子どもの育ちを尊ぶということ」

「子どもの視点に立ったコミュニティ形成を考える」

講師 新 免 信 美（さくらがおか子どもの園 代表）

共催 本学研究ブランディング事業・地域子ども学研究センター

二〇一九年九月二一日（土）午前十時三〇分より午後十二時（≪本学講義館C三〇四教室≫）

「共感・共苦のキリスト教教育の倫理を考える―性の多様性と人権をふまえて―」

講師 新 免 貢（本 学 教 授）

〈共同研究「多民族社会における宗教と文化」主催〉

公開研究会

二〇一九年八月二四日（火）午後一時三〇分より午後六時（≪本学講義館C五〇六教室≫）

「不確実性をめぐる人類学的考察」

講師 井 口 暁（日本学術振興会特別研究員 p h）

講師 吉 直 佳奈子（東京大学大学院総合文化研究科博士課程）

講師 阿由葉 大 生（東京大学大学院総合文化研究科博士課程）

講師 碓 陽 子（明治大学政経学部専任講師）

コメンテーター 渡 邊 日 日（東京大学大学院総合文化研究科教授）

公開シンポジウム

二〇二〇年一月三一日（金）午後一時より午後六時（≪本学人文館A五四九大会議室≫）

発表1 “A Tale of Two Maps: A Study of British Cartography Practice and the Spatial Visualisation of

講師 ゴクテ・マヘーシュ・マドウ（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）
発表二「東北タイ農村のエイジングとジェンダー…移動者を支える高齢女性の事例から」

講師 木曾 恵子（日本学術振興会〈宮城学院女子大学非常勤講師〉）

コメンテーター 南出 和余（神戸女学院大学准教授）

コメンテーター 松尾 瑞穂（国立民族博物館准教授）

四 所員消息（二〇一九年四月―二〇二〇年三月）

市野澤 潤 平 教授

論文「ダイブ・コンピューターと減圧症リスク…観光ダイビングにおける身体感覚／能力の増強とリスク認知」

『国立民族学博物館研究報告』第四三巻四号、二〇一九年三月）

解説「ダークツーリズムの素直な描き方？」『北陸人類学研究会ニューズレター』第二八号、二〇一九年三月）

学会報告「不確実性の人類学に向けて」日本文化人類学学術大会・東北大学（二〇一九年六月二日）

今 林 直 樹 教授

著書『地域の構築・記憶・風景』（晃洋書房、二〇二〇年三月）

学会報告「ジャン・フランソワ・バイヤールと歴史社会学」新潟県・朱鷺メッセ（二〇一九年一〇月十九日）

木村 春美 准教授

論文 “Identity development through study abroad experiences: Storied accounts,” *Studies in Second Language Learning and Teaching*, 9:3 473–493, 2019.

講演 「ことばの学びと協同」宮城協同教育を学ぶ会・MAP研究会 公開ワークショップ 於 宮城学院女子大学
(二〇一九年六月二十九日)

講演 「外国語教育で大切にしたいこと：小中連携に向けて」仙台地区小学校教育研究会・名取市教育研究会 外
国語研究部会授業研究会 於 名取市みどり台中学校 (二〇一九年十一月七日)

学会発表 “Investigating Second Language Pronunciation Anxiety in Contexts,” *Topics in Applied Linguistics: Classroom-Oriented Research*, (Opole, Poland) (二〇一九年九月二十四日)

学会発表 “RAIN Think Tanks: Concept, Content, Collaboration,” *JALT International conference 2019*, WINC
Aichi, (Nagoya) (二〇一九年十一月三日)

九里 順子 教授

論文 「木下夕爾『笛を吹くひと』——不在のリアリティ——」(『日本文学ノート』五四号 二〇一九年七月)

論文 「木下夕爾「生きられる」という生き方」(『人文社会科学論叢』二九号 二〇二〇年三月)

書評 「青木亮人『近代俳句の諸相』」(『鬚』七一号 二〇一九年五月)

書評 「齋藤慎爾『逸脱する批評』」(『鬚』七二号 二〇一九年八月)

書評 「『鬚 TATEGAMI』七二号評」(『鬚』七三号 二〇一九年十一月)

- 書評「一句評」「渡辺白泉」〔『鬘』七三三号 二〇一九年一月〕
- 書評「西池冬扇『高浜虚子・未来への触手』」〔『鬘』七四四号 二〇二〇年二月〕
- 俳句「一陽来復」〔『鬘』七一号 二〇一九年五月〕
- 俳句「光る水」〔『鬘』七二七号 二〇一九年八月〕
- 俳句「風鎮」〔『鬘』七三三号 二〇一九年一月〕
- 俳句「遙かな空」〔『鬘』七四四号 二〇二〇年二月〕
- エッセイ「山の遠近法」〔『鬘』七一号 二〇一九年五月〕
- エッセイ「マッチを覗く」〔『鬘』七二七号 二〇一九年八月〕
- エッセイ「固有名詞の力」〔『俳壇』二〇一九年八月〕
- エッセイ「始まりの想像力」〔『鬘』七三三号 二〇一九年一月〕
- エッセイ「瞼の窓」〔『鬘』七四四号 二〇二〇年二月〕
- エッセイ「木下夕爾・陰影の詩人」〔『俳壇』二〇二〇年三月〕
- 評論「詩の外包五 つらつらつばぎ」〔『鬘』七一号 二〇一九年五月〕
- 評論「詩の外包六 風景に音が見える」〔『鬘』七二七号 二〇一九年八月〕
- 評論「詩の外包七「死んでも」歌謡曲」〔『鬘』七三三号 二〇一九年一月〕
- 評論「詩の外包八 犀星、硝子戸と遊ぶ」〔『鬘』七四四号 二〇二〇年二月〕
- 報告 人文社会科学研究所二〇一九年度第一回研究会「室生犀星、「終わりのあとさき」の往還」(五月二四日於

A五四九)

栗原 健 准教授

書評 Peter NESCO, *Individuality in Early Modern Japan: Thinking for Oneself*. (Renaissance Quarterly Vol.72, No.2, pp.644-645)

新刊紹介 Susan L. EINBINDER, *After the Black Death: Plague and Commemoration among Iberian Jews*. (『西洋中世研究』十一号、二〇一九年二月三日、一七五―一七六頁)

Karen SERRES, *Bruegel in Black and White: Three Grisailles Reunited*. (『西洋中世研究』十一号、二〇一九年二月三日、一八八頁)

研究発表「エリザベス・プールボー使用の教科書について(一八八六年―一八九二年)」(第二回ランカスター神学校調査報告会 於ラーハウザー記念東北学院礼拝堂 二〇一九年十月三日)

研究会報告

『幽霊ミサ』伝説を読む―中世・近世ドイツにおける「異界」との往還―(第三回宮城学院女子大学人文社会学研究所公開研究会 二〇一九年九月二七日)

本学キリスト教講座

「聖書でいちばんの『不憫キャラ』―『居眠り窓から墜落男』と『いきなり外れくじ使徒』(二〇一九年六月六日、キリスト教センター「ヴェリタス」)

「同じ金のメシを食ったイエス―聖書と食べものの美味しい関係」(二〇一九年七月七日、キリスト教セン

ター「ヴェリタス」

『「きよしこの夜」だけではなかったグルーバー——十九世紀オーストリアのほのぼの・ほっこり系ミサ曲』
(二〇一九年十一月二八日、キリスト教センター「ヴェリタス」)

間瀬 幸江 准教授

研究発表「シロドゥに聴く——消費される戦没者の声——」『第一回 声のつながり研究会』（主催：声の主体による文化・社会構築研究会 於ギャラリーチフリグリ 二〇一九年九月五日—六日）

論文“Sur une nouvelle mise en scène de *La guerre de Troie n'aura pas lieu au Japon*”, in *Cahiers Jean Giraudoux* 2019, n. 47—Giraudoux à la scène hier et aujourd'hui, Classique Garnier, pp. 263-274.

論文「二一世紀の教養教育と学習主体化推進に関する一考察——「第二外国語」と「基礎演習」を切り口として——」『研究論文集』一二八・二一九合併号（宮城学院女子大学、二〇一九年一二月）

講演「美しき『裏切り』 戦間期フランスの挿絵本文化——ダヴィッドとドラニエスの仕事から——」宮城学院女子大学 人文社会科学研究所第二八回公開講演会 二〇二〇年一月一日。

シンポジウム報告書編纂「シンポジウム 声を聴く 声をしるす 二一世紀教養教育考」『キリスト教文化研究所研究年報』第四八号所収

新免 貢 教授

論文「共感・共苦のキリスト教倫理と性の多様性と人権との関連で『愛敵論』（本学『研究論文集』二二八—二二九合併号）二〇一九年十二月二十六日、一—三〇頁）

著書『「新」キリスト教入門(2)実践編〜共存・共生・共創をめざして〜』燦葉出版社、二〇二〇年二月十五日、全二〇〇頁)

書評「ヒエロニムス研究によって際限なく開かれたテキスト分析の新たな地平―加藤哲平著『ヒエロニムスの聖書翻訳』(教文館、二〇一八年)―」(京都ユダヤ思想学会編『京都ユダヤ思想』第十号、二〇一九年六月二十九日、二二二―二三五頁)

コラム

「書く論理ではなく、しゃべる論理を！」(サタデーコラム「With・Ms.」⑧(『河北新報』)二〇一九年七月十八日)

「融通の利く世界となるために」(日本基督教団西宮公会同教会月報『共同通信』二七一号、二〇一九年三月十六日)

「復興ムードの陰で」(同、二七三号、二〇一九年五月二十六日)

「真実な生き方が祈りとなる」(同、二七五号、二〇一九年七月二十一日)

「この国の片隅から」(同、二七六号、二〇一九年九月二十九日)

「息はしていませんが、生きています」(同、二七八号、二〇一九年十一月二十四日)

「赦しと正義」(同、二八〇号、二〇二〇年一月二十六日)

研究発表

「共感・共苦のキリスト教教育の倫理を考える―性の多様性と人権をふまえて」(本研究所・性の多様性と人

権委員会協賛公開研究会、二〇一九年九月二十一日、講義館C三〇四教室)

講演

「生産されていく『いじめ』『自死』——これでも心が痛まないのか」(日本基督教団兵庫教区教育部・関西神学塾共催報告集会、二〇一九年五月二十五日、日本基督教団兵庫教区クリスチャンセンター)

「原発事故後、キリスト教の福音宣教の質を問う」(日本基督教団兵庫教区被災者生活支援・長田センター・関西神学塾共催「福島県飯館村立草野・飯樋・白石小学校『凶工授業協力』報告集会、二〇一九年六月二十六日、日本基督教団兵庫教区クリスチャンセンター)

「お題目から共感・共苦への転換——キリスト教教育の倫理——」(一般社団法人キリスト教学校教育同盟東北・北海道地区教育研究会大学部会、二〇一九年八月二十二日、仙台ガーデンパレス)

「異端、カルト、キリスト教」(阪神宗教師の会例会、二〇一九年八月二十三日、浄土真宗本願寺派西福寺)
「拙著『新』キリスト教入門(1)』に対する反響に寄せて」(二〇一九年度関西学院大学神学部兵庫成全会、二〇一九年九月二十七日、日本基督教団宝塚教会)

「持続可能なまちづくり——『バベルの塔』を教訓として」(岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科授業「住宅の構造」、二〇一九年十二月十日、共通講義棟三〇九)

「LGBTと大学——宮城学院女子大学の取り組みから」(北星学園大学スミスミッションセンター運営委員会主催、二〇二〇年二月二十七日、北星学園大学)

講座

関西神学塾／政治・宗教思想研究会（日本基督教団西宮公会資料室）

『「新」キリスト教入門(1)』（燦葉出版社）に対する反応とその吟味（二〇一九年三月二十九日）

「キリスト教的解釈原理―“Heds I win, talls you lose”―」（同）

「原始キリスト教の宣教の視野―スクテヤ人との関連で―」（二〇一九年三月三十日）

「グノーシスとグノーシス主義―定義をめぐる諸問題―」（同）

「解放のプロセスの実践的・知的共有」（二〇一九年五月二十四日）

「イエスの歴史性・可視性・触知性をめぐる第一ヨハネ一章一―四節、第一コリント二章七節、並びに、その他のテクストの相互比較と分析（二〇一九年五月二十五日）

「LGBTをめぐる諸問題―キリスト教の枠組みの捉え直しを視野に入れて(1)」（二〇一九年九月二十七日）

「LGBTをめぐる諸問題―キリスト教の枠組みの捉え直しを視野に入れて(2)」（二〇一九年十一月二十二日）

『「バベルの塔」再考―預言と知恵―』（二〇二〇年一月二十四日）

本学生涯学習講座（講義館C四〇四）

「言葉の共創」「三段権船の最下層の労苦―ルカ福音書序文（一・一―四）に寄せて」（二〇一九年五月十八日）

「日雇い労働者のたとえ―そして下から順番が変わる」「広瀬健一死刑囚（二〇一八年死刑執行）手記『学生の皆様へ』の問いかけ」（二〇一九年六月一日）

「見失われた羊のたとえ―合理性の基準を問う」(二〇一九年六月十五日)

「ジャスティスとはどういうことか―冤罪・死刑」「空の思想」(二〇一九年六月二十九日、七月二十日)

「イエスの原風景を伝える物語三例―法は人のために、民衆への熱狂的のめりこみ、権力批判」(二〇一九年八月三日)

調査活動

飯館村現況調査(福島県飯館村立草野・飯樋・白石小学校、飯館村役場にて聞き取り、二〇一九年六月三―四日)

高橋陽一 准教授

編著『古文書がつなぐ人と地域―これからの歴史資料保全活動―』(東北大学出版会、二〇一九年九月)

編著『小畑富蔵「西国道中日記」 江戸時代の旅、仙台からのお伊勢まいり』(蕃山房、二〇一九年二月)

講演「江戸時代の「本道」笹谷街道と人・物の往来とライブル・二口街道」川崎町山村開発センター(二〇一九年一月二三日、二〇一九年川崎町・上廣歴史文化フォーラム「仙台藩の街道・古道と笹谷街道を中心に

し

シンポジウム「石碑と旅人―景勝地松島の歴史的展開をめぐって」建築会館第三会議室(東京都港区芝、二〇一

九年一月二一日、日本建築学会都市史小委員会シンポジウム「都市空間の物質性」マテリアリティ

調査 作並温泉「鷹泉閣 岩松旅館」古文書調査(仙台市青葉区作並、二〇一九年八月)

田 中 一 裕 教授

論文「Robustness of latitudinal life-cycle variations against climate warming over the last five decades in a cricket.」(Applied Entomology and Zoology, Springer Nature, 二〇一九年十一月)

その他「第七九回日本昆虫学会大会報告」(昆虫ニュースシリーズ、日本昆虫学会、二〇一九年十二月)

講演「家の周りを観察しよう」いきいき学園石巻校(宮城県福祉協議会)、東松島市コミュニティセンター
(二〇一九年十一月二〇日)

学会報告「シバズにおける季節的な雌性先熟」日本応用動物昆虫学会、筑波大学(二〇一九年三月二六日)

学会報告「趣旨説明」日本昆虫学会、弘前大学(二〇一九年九月一六日)

学会報告「温暖化が津軽のマダラスズの生活史を変えた」日本昆虫学会、弘前大学(二〇一九年九月一六日)

天 童 睦 子 教授

著書「教育をジェンダーで問い直す―フェミニズム知識理論の視点から」高橋均編『想像力を拓く教育社会学』

二六二―二八〇頁、(東洋館出版社、二〇一九年四月)

論文「『女性と教育』の近代―女子大学の史的変遷をふまえて―」(『キリスト教文化研究所研究年報』第五三号、
二〇二〇年三月)

はしがき「女子ミッション教育の社会史」研究の展開(『キリスト教文化研究所研究年報』第五三号、二〇二〇
年三月)

研究レポート「災害と女性のエンパワーメント・再考―宮城の事例からみえること」(『We Learn』vol.789, 四-

七頁（公財）日本女性学習財団、二〇一九年九月）

書評 *Learning to Belong in the World: An Ethnography of Asian American Girls*, Tomoko Tokunaga 著（『教育社

会学研究』第一〇五集、一七九―一八一頁、二〇一九年二月）

その他 論稿「東北における女子ミッション教育の社会史」シンポジウムによせて（『宮城学院資料室年報』第二四号、五―八頁、二〇一九年三月）

その他 報告書「はしがき 人間の共生と文化について考える―キリスト教文化研究所の活動を通して」（公開シンポジウム報告書「多文化共生社会基本法―地方の実践から考える」一―二頁、二〇二〇年二月）

その他 Beyond 2018 Japan-Sweden International Collaboration Symposium, Preschool education with sustainability perspectives, 「どのようにして持続可能な視点を取り入れた就学前教育を実践することができるのか」西浦和樹ほかとの共著、宮城学院女子大学『発達科学研究』No.20 一九―三〇頁（二〇二〇年三月）
国際研究会報告

“Japanese Women and Society: from a Post-Disaster Perspective”, presentation at Beyond 2018, @ Gustafslunds Preschool, Helsingborg, Sweden, February 25, 2019

国際学会報告

“Life Career Education and Women’s empowerment: a Post-disaster perspective from Japan”, Comparative Education Society of Hong Kong, Annual Conference 2019, @ The Education University of Hong Kong, March 17, 2019

学会報告「広域避難者を核としたサロン活動を作り上げた女性たち——9年間の変遷」(浅野富美枝との共同発表)。

第6回震災問題研究交流会、早稲田大学、二〇二〇年三月二〇日

講演「『災害をめぐる語り』を読み解く——女性学的アプローチ」、「震災と女性」アーカイブネットワークショップ情報交換会、せんだい3.11メモリアル交流館、二〇一九年七月七日

国際ワークショップ企画・報告

Workshop, 'Childhood and Education Studies from Global Perspective', 早稲田奉仕園' August 9, 2019

国際シンポジウム企画・運営

Symposium on Japan-Sweden International Collaboration, child-centered community studies with sustainability perspectives, 宮城学院女子大学' October 3, 2019

八木 祐子 教授

研究ノート「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民族歌謡(その一)」

『多民族社会における宗教と文化』NO.23 宮城学院女子大学付属キリスト教文化研究所(印刷中、二〇二〇年三月発行予定)

エッセイ「マミーとの出会い」(河北新報 With Me' 二〇一九年六月一三日)

研究発表「ボージプリー文化圏における婚姻儀礼と民謡の変化」(FINDAS 主催 公開研究会、東京外国語大学 サテライトオフィス、二〇一九年六月一五日)

海外調査 北インド、ウッタル・プラデーシュ州アザムガル地区 二〇一九年二月二八日〜二〇一九年三月九日

「北インド農村における家族と女性―『住まい』の視点から―」に関する海外調査

北インド、ウッタール・プラデーシュ州アザムガル地区 二〇一九年八月二十九日～二〇一九年九月八日「ボ―

ジプリー文化圏における家族と女性―儀礼と歌謡―」に関する海外調査

吉村 典子 教授

学会発表「一九五六年『これが明日だ』展再考―グループ2の展示を中心に」美術史学会全国大会、京都工芸織

維大学、二〇一九年五月

「ジョン・ヴェルカーの空間計画」意匠学会全国大会、滋賀県立大学、二〇一九年八月

「世紀転換期の英国デザイン」独仏語圏文化学研究会、大阪市立大学、二〇一九年十二月

講演「『これが明日だ』展のPopとOp―戦後イギリスの展示文化―」宮城学院女子大学人文社会研究所第二十

―八回公開講演会、二〇二〇年一月